第１３章　薬物療法３（合併症の治療）　セルフ学習問題

解答用紙に下線部の解答を記入してください。

・糖尿病の合併症に対し、成因に基づいた画期的な治療はなく、発症の予防、進展を防止するためにはQ1_____を維持することが重要である。

・糖尿病網膜症の薬物療法には Q2_____硝子体内注射、Q3_____眼内注射がある。視力障害、失明予防の観点から定期的な眼科受診を指導する

・糖尿病患者では早期腎症の時期から糸球体過濾過による糸球体高血圧がみられており、Q4_____、Q5_____が第一選択薬として用いられる。

・糖尿病末梢神経障害は糖尿病合併症の中で最も頻度が Q６_____。

・高 LDL コレステロール血症に対しては、Q７_____が第一選択薬であり、高トリグリセリド血症の第一選択薬は Q8_____である。

・糖尿病患者は、Q9_____mmHg 以上であれば脳心血管病の発症が高リスクと判断されるため降圧治療を開始する。

・降圧目標を達成するためには Q10_____による血圧の厳格な管理が脳心血管イベントの抑制につながる

・DKD（糖尿病関連腎臓病）患者に対して腎予後の改善と心血管イベント抑制が期待される Q11_____が第一選択薬とされている。

・大血管症の既往を有する糖尿病患者では Q12_____の投与が推奨されており、Q13_____が第一選択薬となる

・近年肥満症の治療薬として GLP-1 受容体作動薬が適応承認されたが、適正使用ガイドラインに従い、Q14_____の補助として使用する

・Q15_____は科学的に効果を検討されたものではなく、厚生労働省が認可していないため、医療人として推奨しない。